

# 8月の研修が終了しました

8月4日(金) ビッグU

看護研究を学ぶ クリティック プレゼンテーション

というテーマで、大阪労災病院 母性看護専門看護師 **三宅 知里** 講師の講義を行った。

42名の受講者の参加があった。

クリティックの必要性や方法など講義があり、講師が用意した論文を使って、実際にクリティックを行った。講師が助言しながら回り、意見交換しながらグループワークを行った。尺度を用いる時の注意点、倫理的配慮の重要性を学んだ。研究発表の仕方やスライドショーのアニメーション設定の方法、発表方法など効果的なプレゼンテーションの方法なども学び、積極的に受講していた。

アンケート結果からは、解決の糸口が見えたなど前向きな意見があった反面、学習内容が許容量を超えていたという意見もあった。今後、看護研究の研修については、学習段階に応じた研修計画を立案していきたいと考える。



《講義の様子》



《受講生から積極的な質問があった》



《講師が助言しながら個人ワーク》



《グループワークの様子》



《講師が持参した参考図書》

## 8月5日(土) ビッグU

### 看護研究に役立つ統計学の基礎

というテーマで、京都女子大学 教授 **岩原 昭彦** 講師の講義を行った。

19名の受講者が参加した。

研究計画の立て方、どの場面でどの検定を使えばよいか、研究手法が持つ意味などの講義があった。1人1台ずつ設置してあるパソコンで、講師が用意した事例を用いて、分析ツールの使い方や度数分布表の作り方、t検定など実際に操作しながら講義を受けることができた。資料にない部分は、撮影の許可がありスマホ等使って操作方法をメモにっていた。

受講者が戸惑う様子の多い場面では、繰り返し説明があり、受講者の理解に合わせた講義であった。休憩時間にも、受講生からの操作方法などの質問があり熱心に学んでいた。

アンケート結果から、ねらいに沿った研修が受けられたという意見が多かった。実際にパソコン操作したため、さらなる理解につながったと思われる。



《説明を受けながら各自で操作している様子》

## 8月24日（木） 看護研修センター

認知症患者の看護を理解しよう というテーマで 国立病院機構 和歌山病院 認知症看護認定看護師 堅田 弥生 講師の講義を行った。

受講生は108名で非常に希望が多い研修だった。

認知症ってどんなイメージ？ もし自分が認知症になったらどう思う？という問いかけから講義は始まった。

4大認知症を経過や症状、治療を含めて講義してくれた。

また、認知症予防にはどんなことが効果的か。認知症の方とのコミュニケーションや看護を具体的に説明された後、事例で考えながらグループワークを行った。

講義の中で、ユマニチュードの事例や認知症患者と家族の関わり方を実際にテレビで放送された内容を映像として流してくれた。これには受講生が現実のことは見ることができたためによりわかりやすく理解できたようだ。

余談ではあるが、テレビで放送されたものをユーチューブで見ることができることで、受講生はユーチューブの使い方にも関心を持たれていた。



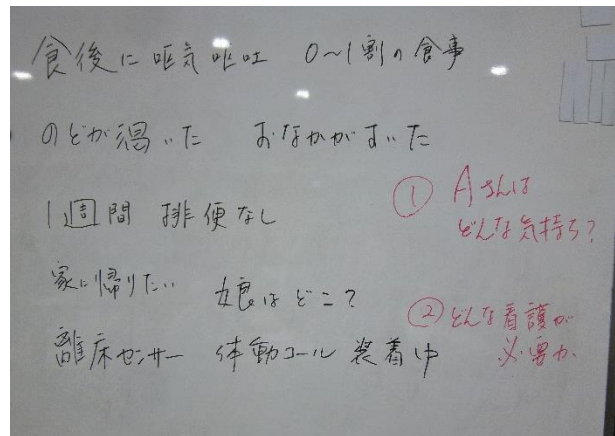
《講義の様子》



《映像を見ながらの研修》



《ホワイトボードを用い、事例を通してグループワークを行う》



8月28日(月) 看護研修センター

### 管理者が学ぶ幸せ交渉術

というテーマで、テルモ 取締役顧問 **松村 啓史** 講師の講義を行った。

45名の受講者の参加があった。講義と演習が行われた。

講義は隣の席の人とペアを組み、チーム名を作るところから始まった。質問に対して挙手にて回答するという形で講義が進められた。積極的に発言する場面が多く見られた。(発言が多ければ、プレゼントがもらえる)

それぞれの特性をビジネスに結び付ける、ジャニーズを例に説明してくれた。交渉の場面が多い看護師、交渉の秘訣をポイントごとに講義してくれた。

講義最後には、先生からプレゼントをもらい最後まで笑顔の絶えない全員参加型の研修となった。

アンケート結果より「行動することが大切であるということを学んだ」「得たものは大きかった」などがあり、ねらいに沿った研修が行えたと感じた。「松村先生の講義をお願いします」と、指名も入るほどであった。



《チーム名を書いている様子》



《講義の様子》





《お互いに褒めあっている様子を発表》



《プレゼントをもらって笑顔で終了》